

対馬出身のピアニストが故郷で演奏会

岩井智宏with片桐春香 ふるさとジョイントコンサート

対馬出身のピアニスト岩井智宏さん（27歳）が、8月11日、対馬市交流センターで「ふるさとジョイントコンサート」を開きました。

79年に厳原町で生まれた岩井さんは、名門の武蔵野音楽大学を卒業し、数多くのコンクールで入賞するなど活躍しています。父の仕事の関係で対馬の学校に通ったことはないそうですが、正月の時など、母の実家のある対馬をよく訪れていたそうです。

今年初め帰省した際に交流センターのホールを見て、是非対馬でコンサートを開きたいと決意。つしまライオンズクラブ及びピアノ教室関係者の協力もあり開催が実現しました。

舞台では、大学の同級生で友人の片桐春香さん（28歳・東京出身）とモーツァルトやショパンなどのピアノの名曲を演奏。特に1台のピアノを2人で弾く「連弾」では、息のあった演奏で約300名の観客を魅了しました。

コンサートを終えて岩井さんは「たくさんの方が静かに聴いてくれて嬉しかったです。気持ちよく演奏ができました。」と満足げに話していました。

また、コンサートでは地元のピアノ教室に通う子どもたちによるピアノ演奏や、コーラスグループ「ありあけエコー」の皆さんによる合唱も行われました。



ピアノを連弾で演奏する2人



今年も盛況だった「親子英会話教室」



上対馬高校のALTディビッド・リーズさんと高柳朋香教諭の指導のもと、上対馬総合センターで5月5日にスタートした地域公開講座「親子英会話教室」が、7月18日に終了しました。

同講座には、児童15名（4歳から11歳まで）と保護者7名の22名が受講し、ゲームなどを通して「挨拶」「自己紹介」「数字」「色」「買い物の仕方」などを学び、最終回には受講者一人ひとりに手作りの英文修了証書が贈られました。

高柳教諭は「昨年の反省を踏まえ、講座の進め方を工夫しました。来年も新しいALTと一緒に、よりよい講座にしていきたい」と抱負を語りました。

8月10日、美津島町高浜漁協女性部主催による「のびのび海の子常会^{じょうかい}」が同漁協前岸壁で開かれ、高浜地区の小学生約15名がライフジャケットを体験着用しました。海に親しむ機会が多い夏休みに、子どもたちに救命胴衣の重要性を知ってもらおうと開かれたものです。

対馬海上保安部の職員の手を借り、子ども用の小さな救命胴衣を着た子どもたちは、分厚くかさばる救命胴衣に窮屈そうにしていたが、海中転落時に生存率を飛躍的に上げる効果のあるライフジャケットの説明に、真剣に耳を傾けていました。

また、空になったペットボトルを使用して、海に落ちた人を救助する方法など、海の事故の際の対処法も学びました。

「水難事故から身を守れ」

小学生がライフジャケットを体験
美津島町高浜漁協女性部主催「のびのび海の子常会」

